

会期中の併催イベント

会長講演・表彰式

日時：3月23日(土) 13時40分～15時20分
会場：SJ会場(プリズムホール)

プログラム

13:40- 会長講演「化学が先導する持続社会：転換期における化学者と化学会の役割」(平成24,25年度会長)玉尾 皓平
14:20- 表彰式

スプリングコンサート2013

日時：3月23日(土) 16時～17時
会場：SJ会場(プリズムホール)

化学オーケストラ：日本化学会会員を中心として、広く化学関係者により2002年に結成された音楽団体で、昨年、設立10周年を迎えました。

例年、日本化学会春季年会会期中に「スプリングコンサート」を開催するとともに、10月に実施される「千代田区オーケストラフェスティバル」では、一般のクラシックファンを前に、種々のオーケストラ作品を披露しています(次回：2013年10月26日(土)、於：大手町・日経ホール)。また、2011年にはドイツ化学会年会オープニングセレモニーにおける記念演奏(日独交流150周年記念行事：ドイツ・プレーメン)を実現し、活動の場がますます広がっています。

今回のスプリングコンサートでは、室内楽編成によるバロックの名曲からオーケストラ編成による人気曲までを、学会発表の会場にお楽しみいただきます。

曲目：J.S.バッハ/ブランデンブルグ協奏曲第3番(全曲)、J.S.バッハ/ブランデンブルグ協奏曲第4番(第1楽章)、モーツァルト/交響曲第41番「ジュピター」(第1楽章)、レハール/ワルツ「金と銀」。

参加費：無料

問合せ先：日本化学会事務局 保倉光邦

E-mail: hokura@chemistry.or.jp

<http://homepage3.nifty.com/upward/orchestra/>

懇親会

日時：3月23日(土) 18時～20時
会場：ユニオンスクエア2階

今回の懇親会では世代を超えて各界各層の懇談の場とするべくより実質的な企画となっております。先生方におかれましては学生の参加費は低く抑えておりますので、ぜひお誘いあわせの上ご参加いただけますと幸いです。

参加費：一般6,000円、学生2,000円

申込方法：年会会場内の総合受付にてお申し込み下さい。

ATP交流会

日時：3月22日(金) 17時30分～19時
会場：ユニオンスクエア2階

ATP交流会では、気軽に立ち寄れる出会いと交流の場を、年会参加者の皆様に無料で提供します。企業の研究者にいろいろ聞いてみたい学生の皆様、ATPセッションのオーガナイザーと親密に交流したい皆様には、願ってもないチャンスです。オーガナイザ

ーや企業研究者(ATP委員)が、目立つ名札を付けて皆様との交流をお待ちしています。年会2日目以降のATPセッションの紹介もありますし、アルコール、ソフトドリンク、軽食だけでなく、滋賀の特産品やささやかなプレゼント抽選会も用意しています。年会初日の夕方は、是非お誘い合わせてATP交流会にお越し下さい。のどを潤しながら、楽しく語り、盛り上がりましょう。

参加費：無料

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込は必要ありませんので、直接会場へお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 河瀬

電話(03)3292-6163

E-mail: sangaku@chemistry.or.jp

市民公開講座 ～科学者たちの未来への挑戦～

日時：3月24日(日) 13時～16時30分
会場：SJ会場(プリズムホール)

春季年会実行委員会では、一般市民の方々を対象とする恒例の「市民公開講座」を下記の内容で企画いたしました。今回も市民の方々の生活に密接に関連した身近な話題を、専門の先生方にやさしくお話していただきます。どの先生もそれぞれの分野でご活躍の著名な先生方ですので、十分楽しんでいただける半日になると思います。奮ってご参加下さい。

プログラム

13:05- 琵琶湖の自然環境回復への取組み(びわ湖自然環境ネットワーク) 寺川庄蔵

13:55- 文化財を護る—文化財保存に活かされる化学—((財)元興寺文化財研究所) 植田直見

14:55- アミノ酸プロファイリングは、なぜ多様な疾患リスクを知っているのか? (味の素) 安東敏彦

15:45- 地層に残された巨大地震の痕跡—過去を知り、未来を考える—(産総研地震研) 澤井祐紀

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。当日会場にて受付。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

実験教室

主催：春季年会実行委員会
協力：日本化学会近畿支部化学教育協議会
日時：3月24日(日)
会場：エクセル2 学生実験室

春季年会では、大学の実験室を会場とした下記、実験教室を行います。

① 目指せ未来の科学者(小・中学生向け)

② 実験教室(高校生向け)

詳細はWEBにて。URL: <http://www.chemistry.or.jp/nenkai/93haru/>

付設展示会

主催：日本化学会
協力：(株)化学工業日報社
後援：日本科学機器団体連合会・(社)日本分析機器工業会・日本薬料機器協会・(社)日本試薬協会
日時：3月22日(金)～25日(日) 10時～17時
会場：アドセミナリオ
参加費：無料

出展社：(1月25日現在)

RSC (英国王立化学会), (株)アイシス, (株)旭製作所, 朝日分光(株), アステック(株), アヅマックス(株), (株)アポロウェーブ, (株)アントンパール・ジャパン, (株)イーシーフロンティア, (株)池田理化, 米国法人 Wavefunction, Inc., (独)宇宙航空研究開発機構, HPC システムズ(株), (株)ATR, エルゼビア・ジャパン(株), オーシャン フォトニクス(株), オプトシロウス(株), 一般社団法人化学情報協会, (株)化学同人, カクタス・コミュニケーションズ(株), 関東化学(株), (有)桐山製作所, (株)グローブボックス・ジャパン, (株)ケー・エヌ・エフ・ジャパン, (株)講談社, コクヨS&T(株), コンフレックス(株), (株)サイエンスラボラトリーズ, CTC ラボラトリーシステムズ(株), JFE テクノリサーチ(株), シグマ アルドリッチ ジャパン合同会社, 四国計測工業(株), 柴田科学(株), ジャパンハイテック(株), シュプリンガー・ジャパン(株), シュレーディング(株), 純正化学(株), 昭光サイエントフィック(株), (株)スギヤマゲン, (株)セントラル科学貿易, (株)ダイセル, WDB(株), (株)デジタルデータマネジメント, Taylor & Francis Group (CRC Press), (株)東京インストルメンツ, (株)東京化学同人, 東京化成工業(株), トムソン・ロイター, ナカライトスク(株), 公益社団法人日本技術士会 化学部会, 日本ゼオン(株), 日本電子(株), 日本分光(株), 日本分析工業(株), ネイチャー・ジャパン(株), バイオタージ・ジャパン(株), (株)パキユブランド サイエントフィック ジャパン, 浜松ホトニクス(株), ビー・イー・エス(株), ヒドラス化学(株), 兵庫県立大学, 富士通(株), (株)伏見製薬所, (独)物質・材料研究機構 ナノテクノロジープラットフォームセンター, ブルカー・エイエクセス(株), 分子科学研究所 分子・物質合成プラットフォーム, 丸善(株)卸営業部, 丸善出版(株), 山善(株), (株)UNICO, (株)ユニソク, ユラボジャパン(株), (株)ライトストーン, (株)リガク, (株)菱化システム, (株)レッチュエ, (株)ワイエムシイ, ワイリー・ジャパン, ワケンピーテック(株), 和光純薬工業(株), 渡辺化学工業(株)

人工光合成研究の最前線： 挑戦する若手研究者 JSTさきがけ「光エネルギーと 物質変換」研究領域研究成果報告会

主催：科学技術振興機構 (JST)

共催：日本化学会・文部省科研費新学術領域研究「人工光合成による太陽光エネルギーの物質変換：実用化に向けての異分野融合」

日時：3月22日(金) 9時30分～18時

会場：S1 会場 (コラーニングハウス I C102 教室)

東日本大震災に伴う原子力発電所の事故により、我が国のエネルギー政策について抜本的な見直しが行われている。太陽光エネルギーなど自然再生エネルギーの本格的な利用に向けた研究開発が喫緊の課題になっている。平成21年度科学技術振興機構に発足した「さきがけ：光エネルギーと物質変換」研究領域では、太陽光の有効利用の中で最も本質的な課題「光エネルギー/化学エネルギー変換(人工光合成)」に真正面から取り組んでいる。当研究領域では、毎年春季年会会期中に国際シンポジウムを開催しており、第91春季年会では「光エネルギーと物質変換：人工光合成の未来」を、第93春季年会では、当領域を含む化学関連さきがけ4領域合同で「持続する社会を先導する光科学：環境・エネルギー・機能材料」を開催し、いずれも500名を超える参加者を集め好評を博した。今回は、人工光合成研究の世界的な権威者の一人であり、かつ米国の再生エネルギープロジェクト研究の代表者である Thomas J. Meyer 教授 (Univ. of North Carolina at Chapel Hill) による特別講演のほか、平成21年度採択研究者による研究成果と中間成果の口頭発表、平成22、23年度採択研究者によるポスター発表を行い、さきがけ研究領域の現状と将来展望について議論する。それにより人工光合成研究課題の重要性及び研究領域への参画を化学関連若手研究者等に広く情報発信し、化学関連研究者への科学的刺激と更なる研究推進に資する。

プログラム

開会挨拶 (JST さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究領域研究総括・首都大東京特任教授) 井上晴夫

研究発表 (口頭)

1. 時間分解 X 線構造解析法による光エネルギー変換機構の分子動画像観測 (高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研教授) 足立伸一
2. 光機能性巨大 π 共役系化合物の創製 (奈良先端大物質創製准教授)

授) 荒谷直樹

3. ナノ構造体の階層的構造制御による光機能性材料の創製 (九大理工准教授) 伊田進太郎
4. 水の可視光完全分解を可能にする高活性酸素発生触媒の創製 (分子研生命錯体研究領域准教授) 正岡重行
5. 水素生成型太陽電池を目指した水の光酸化ナノ複合触媒の開発 (新潟大院自然科学系教授) 八木政行
6. 特別講演「Finding the Way to Solar Fuels (Univ. of North Carolina at Chapel Hill, Arey Distinguished Professor) T. J. Meyer
7. ペプチド折り紙で創る二酸化炭素多電子還元触媒 (北里大院理准教授) 石田 斉
8. 可視光エネルギーを駆動力とする触媒の有機分子変換システムの開発 (首都大東京理工特任准教授) 稲垣昭子
9. ホスファールケン系配位子を持つ鉄錯体を触媒とする二酸化炭素の高効率光還元反応 (京大化研助教) 中島裕美子
10. 光反応中心・光受容体タンパク質における光反応の分子制御 (京大生命科学系キャリアパス形成ユニット特定助教) 石北 央
11. [Fe]-ヒドロゲナーゼの活性中心鉄錯体の生合成 (マックスプランク陸生微生物学研 GL) 嶋 盛吾
12. タンパク質工学的アプローチによる高効率ギ酸生産藻類の設計 (信州大農助教) 伊原正喜
13. 光合成膜タンパク質分子集合系の機構解明 (名工大理工准教授) 出羽毅久

開会挨拶 (科学技術振興機構)

研究交流会 3月22日(金) 18時～19時30分, ユニオンスクエア2階, 会費1,500円(予備。当日徴収)

研究発表 (ポスター)

平成22,23年度さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究領域採択研究者による発表。

日時：3月23日(土) 9時30分～11時30分

会場：PD 会場 (エポック立命 21)

プログラムは春季年会プログラム 130 ページにてご確認ください。

参加費：成果報告・講演要旨集：無料

申込方法：JST さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究領域事務所 HP (<http://www.chem-conv.jst.go.jp/index.html>) からお申し込み下さい。

問合せ先：192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 首都大学東京 プロジェクト研究棟 302 号室 科学技術振興機構さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究領域事務所

電話(042)653-3415 FAX(042)653-3416

E-mail: tamaki@chem-conv.jst.go.jp

日加国際交流シンポジウム： 次世代の遷移金属触媒・ 合成反応プロセス

主催：公益社団法人日本化学会

共催：JST・CREST, 九州大学先端物質化学研究所 (CREST 永島チーム)

日時：3月23日(土) 9時～12時5分

会場：S2 会場 (コラーニングハウス I C103 教室)

遷移金属を用いる均一系触媒は、医薬品や機能性材料に代表される高付加価値な有機化合物、高分子化合物の精密合成の重要な手段となっている。次世代の均一系触媒を開発する鍵は、高活性や高選択性を実現する分子レベルの高度な触媒設計、環境や安全性に配慮した触媒プロセスの設計であり、元素戦略が大きな役割を果たす。例えば、配位子の精密設計による高い触媒効率での高度な選択性の発現、貴金属触媒機能の卑金属触媒での実現、斬新な概念に基づく触媒回収・再利用システムの構築は、元素戦略における、元素減量、元素代替、元素回収という目標に一致する。本企画は、この課題に取り組むカナダ、日本の研究者の国際交流を促進するシンポジウムの開催である。

プログラム

9:00-9:05 趣旨説明 (九州大学先端物質化学研究所) 永島英夫

■座長 澤村正也 (北海道大学大学院理学研究院)

9:05-9:25 放射光 X 線吸収分光による反応溶液中鉄活性種の同定と構造解析 (京都大学化学研究所) 高谷 光

9:25-9:45 Fluorine Atom Transfer to Alkyl Radicals (ブリティッシュ・コロンビア大学) Glenn Sammis

9:45-10:05 炭素-窒素結合間の軸不斉制御：軸不斉 *N*-アリアルインドール類の立体選択的合成 (大阪府立大学大学院理学系研究

科) 神川 憲

■座長 魚住泰広 (分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域)
10:05-10:25 New Catalysts and Bifunctional Reagents for the
Amination of Alkenes (オタワ大学) André M. Beauchemin
10:25-10:45 不活性結合切断を経る芳香族化合物のアリール化と
その応用 (慶應義塾大学理工学部化学科) 垣内史敏
10:45-11:05 Enantioselective synthesis of chiral arylated alkanes
via Rh, Pd and Boron chemistry (クイーンズ大学) Cathleen
Crudden

= Prof. Howard Alper 名誉会員記念講演 =

■座長 柳 日馨 (大阪府立大学大学院理学系研究科)
11:05-11:15 日本化学会名誉会員顕彰・Howard Alper オタワ大学
教授紹介・スピーチ: 玉尾皓平 (日本化学会会長・Cathleen
Crudden カナダ化学会会長)
11:15-11:55 名誉会員記念講演 Metal Catalyzed Carbonylation
and Cyclization Reactions (オタワ大学) Howard Alper
11:55-12:05 今後に向けて (奈良先端科学技術大学院大学) 村井眞二
参加費: 聴講可能。(年会参加登録者に限る。)

申込方法: 当日受付。

問合せ先: 日本化学会 企画部 稲田

電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318

E-mail: inada@chemistry.or.jp

ケミカルレコード・レクチャー The Chemical Record Lecture 2013

主催: 日本化学会・Wiley-VCH

日時: 3月23日(土) 15時30分~16時20分

会場: S2会場 (カラーニングハウス I C103教室)

日本の化学関係 8学協会の雑誌として刊行した総合論文誌
"The Chemical Record" は、2011年より日本化学会の雑誌として
リニューアルしました。Wiley-VCH との本格的な提携によりイン
パクトファクターも着実に向上しております。山本尚編集委員長
による編集体制の下、本年も年会時に TCR Lecture を開催いたし
ますので、多くのみなさまのご参加をお願いいたします。

プログラム

15:30- Conjugated Organic Materials for Light Emission and
Light Harvesting (The University of Melbourne) Andrew
Holmes

参加費: 無料 (年会登録者に限る)

申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 学術情報部 TCR 係

電話(03)3292-6165

E-mail: tcr@chemistry.or.jp

我が国発の化学論文が 減り続けている! 何が起きているのか、 我々は何をなすべきか。

主催: 日本化学会 戦略企画委員会

共催: 科学技術政策研究所

後援: 日本学術会議 (予定)、科学技術振興機構 (予定)、日本学
術振興会

日時: 3月24日(日) 9時30分~12時30分

会場: S4会場 (カラーニングハウス I C108教室)

文部科学省科学技術政策研究所から公表された「科学研究のベン
チマーキング2011」において、化学分野の論文数は主要国(米
国、中国、英国、ドイツなど)で増加傾向にあるが、我が国の化
学分野の論文数はこのような流れと逆行し、漸減していることが
指摘された。今、研究現場で何が起きているのか。その背景には、
運営費交付金から競争的資金への移行による研究費の偏在、選択
と集中の弊害、評価疲れ、5年任期制導入、多様な短期・時限プ
ロジェクトによる研究の断片化、ポストドク問題、掛け声だけの国
際化、内向き志向の若者など多様かつ複合化した要因が考えられ
る。そこでこの喫緊の課題について論議し、対策を探りたい。

また、被引用数の高いトップ10%論文数に関しても、米国、中
国、英国・ドイツが我が国より上位にランクしている。英独両国

は我が国より研究者数、研究費ともに少ないにもかかわらず、ど
んな背景があり、努力がなされているか。

さらに、基礎研究~応用研究~商品化という我が国トータルの
強みの中で何が起きているのか、産業力の観点からも、併せて
論議する。

プログラム

09:30- 挨拶・趣旨説明 (日本化学会会長) 玉尾皓平

第1部: 講演会

09:40- 科学計量学から見た日本の化学の実力と課題 (文科省科学
技術政策研究所所長) 桑原輝隆

10:20- ドイツの化学分野での国際的実績—統計的データと背景
(IRIS 科学・技術経営研究所代表取締役社長) イリス ヴィー
ツォレック

10:40- 論文データにみる日本の化学、アジアの化学 (トムソンロ
イター シニアディレクター) 棚橋佳子

第2部: パネル討論

11:05-12:30 (5分×5名+60分)

司会

渡辺芳人 (日本化学会筆頭副会長・名古屋大学)

パネリスト

・桑原輝隆 (文部科学省科学技術政策研究所長)

・岩澤康裕 (日本化学会前会長・電気通信大学)

・有本建男 (政策研究大学院大学教授兼科学技術振興機構・研究
開発戦略センター副センター長)

・山本 尚 (中部大学)

・谷口 功 (熊本大学)

・川上文明 (日本化学会理事・旭化成株式会社)

参加費: 無料

申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 学術情報部 竹内 恵

電話(03)3292-6165 FAX(03)3292-6319

E-mail: takeuchi@chemistry.or.jp

分子エレクトロニクスから 分子スピントロニクスへの展望

主催: 学術研究活性化委員会

日時: 3月24日(日) 9時~12時20分

会場: S5会場 (カラーニングハウス I C109教室)

電子の電荷の自由度に基づくエレクトロニクスに対して、電子
の電荷とスピンと軌道などの自由度に基づくスピントロニクスが
注目を集めている。これらの研究対象は、以前は無機化合物であ
った。しかし、近年では分子性化合物を用いたエレクトロニクス
やスピントロニクスが注目を集め、基礎と応用の両面から注目を
集め始めている。本先端ウオッチングシンポジウムでは、「分子
接合の磁気抵抗効果」、「単分子量子磁石を用いた量子分子スピ
ントロニクス」、「高移動度有機トランジスタ中のキャリア ESR 観
測」、「分子を介した電氣的・動力的スピン輸送」、「薄膜デバ
イスにおける電子輸送と励起状態を利用した有機スピントロニ
クス」、「ナノラジカル界面の電子機能発現」など、分子スピント
ロニクスの最先端の話題を提供して議論を行う。

プログラム

9:00- はじめに (東北大・院理) 山下正廣

9:10- 分子を介した電氣的・動力的スピン輸送 (阪大・基礎工)
白石誠司

9:40- 薄膜デバイスにおける電子輸送と励起状態を利用した有機
スピントロニクス (東大・物性研) 田島裕之

10:10- 分子接合の磁気抵抗効果 (阪大・基礎工) 多田博一

10:40- 高移動度有機トランジスタ中のキャリア ESR 観測 (名大・
院工) 黒田新一

11:10- ナノラジカル界面の電子機能発現 (名大・物質科学) 阿波
賀邦夫

11:40- 単分子量子磁石を用いた量子分子スピントロニクス (東北
大・院理) 山下正廣

12:10- 終わりに (東大・物性研) 田島裕之

参加費: 無料

申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 企画部 美園

電話(03)3292-6163

E-mail: misono@chemistry.or.jp

配位プログラミングの化学 —超構造体創製から化学素子への 展開

主催：学術研究活性化委員会
日時：3月24日(日) 13時～17時20分
会場：S5会場(コラーニングハウス I C109教室)

配位プログラミングは、化学結合を自由度高く可逆的に制御できる配位化学を利用して、金属原子や金属イオンを自在かつ精密に配置し、特異な物理・化学特性を有する機能階層的な超構造体を設計通りに組み上げる方法である。超構造体は単分子系からメゾスコピック系までも拡張可能であり、その内部で、酸化還元ポテンシャルやスピンなどの電子構造を分子/原子レベルで精密に配置・配列できるため、高精度の化学素子をデザインでき、ここ数年、様々な進歩をとげてきた。本シンポジウムでは、最先端の配位プログラミングの化学に焦点をあて、さらにその先に広がる新潮流の創成・展開に向けて討論をする。

プログラム

- 13:30- 趣旨説明(東北大院理) 山下正廣
13:40- 金属錯体の階層的組織化学～精密組織とメゾフェーズへの展開(名大院理) 田中健太郎
14:05- 刺激応答分子の創製とその精密配列による化学素子の開発(東大院理) 坂本良太
14:30- 細胞応用に向けた錯体材料による化学刺激デバイスの構築(京大院工) 古川修平
14:55- p電子系の分子間相互作用の緻密制御による配列制御(物材研) 竹内正之
15:30- 次元交差幾何学による新物質科学(京大院理) 北川 宏
15:55- 表面を媒体とした触媒反応場の構築(分子研) 唯 美津木
16:20- 配位物質のナノ構造制御と新機能創出(産総研) 徐 強
16:45- 双安定性錯体における自在電子状態制御(筑波大物質) 大塩寛紀
17:10- おわりに(東大院理) 西原 寛
参加費：無料
申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先：日本化学会 企画部 美園
電話(03)3292-6163
E-mail: misono@chemistry.or.jp

第7回化学遺産市民公開講座

企画：日本化学会化学遺産委員会
主催：日本化学会・化学史学会
共催(予定)：日本化学工業協会
日時：3月24日(日) 13時30分～16時50分
会場：S6会場(コラーニングハウス I C206教室)

化学遺産委員会では、平成21年度から化学関連の学術あるいは化学技術遺産の中で特に歴史的に高い価値を有する貴重な史料を認定する『化学遺産認定制度』を開始し、第1回として6件、第2回として4件、第3回として7件をそれぞれ認定・顕彰した。平成24年度も前年度同様に化学遺産認定候補を一般市民・会員諸氏より公募するとともに、委員会でも認定候補として相応しいものを選定し、対象候補19件の調査・検証作業を行った。今回の市民公開講座では、本年度第4回化学遺産として認定された5件の内容を紹介する。

プログラム

- 13:30- 開会挨拶・紹介(京都大学・名誉) 植村 榮
13:40- 小川正孝のニッポニウム発見—明治日本の化学の曙(東北大学・名誉) 吉原賢二
14:15- 女性化学者のさきがけ 黒田チカの天然色素研究関連資料(佐賀大学) 堀 勇治
14:50- 休憩
15:00- フィッシャー・トロブシュ法による人造石油製造に関わる資料(日本大学) 古川 安
15:35- わが国最初の電解工業 電解法による塩素酸カリウムの製造(日本化学会フェロー) 田島慶三
16:10- 日本の近代化学工業創出の原点—国産技術によるアンモ

ニア合成(東工試法)の開発と企業化—(名古屋産業振興公社) 亀山哲也

16:45- 開会挨拶(東京理科大学) 宮村一夫
参加費：無料。講演会資料代(予備)1,000円(当日徴収)。
申込方法：化学遺産市民公開講座参加希望と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX・E-mailを明記し下記までお申し込み下さい。当日参加もできます。
申込先：日本化学会 総務部 化学遺産担当
〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6162 FAX(03)3292-6318
E-mail: kagakuisan-koza@chemistry.or.jp

第4回日英シンポジウム2013 —若手研究者のケミカル バイオロジー

主催：日本化学会将来構想委員会
共催：英国王立化学会(RSC)
日時：3月24日(日) 9時10分～17時40分
会場：S8会場(コラーニングハウス I C306教室)

ケミカルバイオロジーの潮流には2つの大きな流れがある。1つは天然物化学や有機合成化学を主体とした生理活性に着目した流れであり、もう一方はイメージングプローブ作製による可視化解析である。これらの2つの流れは、近年のノーベル化学賞受賞対象研究にみられるように深いつながりがある。今回のシンポジウムでは、英国と日本において化学を突破口とした生物学研究を展開している若手講演者にお話しいただき、化学研究が生物学研究に与えるインパクトについて紹介する。また、本シンポジウムは日本化学会の国際交流活動の一環として英国王立化学会と共同で開催され、2010年7月にロンドンにおいて開催された共同シンポジウムに続いて開催される企画である。当初2011年に企画されていたが震災の影響にて今回は延期となった。英国から4名の招待講演者を招き、日本側においても5名の講演者によりシンポジウムを開催する。

プログラム

- Chair: Kazuya Kikuchi
9:10-9:20 Opening Remarks from CSJ
9:20-9:30 Opening Remarks from RSC
■ Chair: Hiroshi Murakami
9:30-10:10 Gregory L. Challis, Warwick University, "Novel Catalytic Chemistry in Bioactive Natural Product Biosynthesis"
■ Chair: Gregory L. Challis
10:10-10:50 Hiroshi Murakami, The University of Tokyo, "Development of Non-standard Peptide Inhibitors Using TRAP display"
10:50-11:20 Intermission
■ Chair: Kazushi Kinbara
11:20-12:00 Dominic Campopiano, University of Edinburgh, "Sphingolipid Biosynthesis in Man and Microbes"
■ Chair: Dominic Campopiano
12:00-12:40 Kazushi Kinbara, Tohoku University, "Development of Supramolecular Tools for Regulation of Biological Events"
12:40-13:40 Lunch Time
■ Chair: Nicholas J Westwood
13:40-14:20 Motonari Uesugi, Kyoto University, "Small Molecule Tools for Cell Biology and Cell Therapy"
■ Chair: Motonari Uesugi
14:20-15:00 Nicholas J Westwood, University of St Andrews, "Recent Advances in Chemical Genetics"
15:00-15:30 Intermission
■ Chair: Rebecca Goss
15:30-16:10 Masayuki Inoue, The University of Tokyo, "Total Synthesis and Biological Evaluation of Polytheonamide B"
■ Chair: Masayuki Inoue
16:10-16:50 Rebecca Goss, University of East Anglia, "Elucidating and Exploiting Biosynthesis"
■ Chair: Rebecca Goss
16:50-17:30 Kazuya Kikuchi, Osaka University, "Molecular Imaging Probes with Tunable Switches for in Vivo Applications"
17:30-17:40 Closing Remarks
参加費：聴講可能。(年会参加登録者に限る)。
申込方法：事前登録不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先：日本化学会 企画部 稲田

第3回日中若手化学者フォーラム —元素の有効活用と化学への応用—

主催：日本化学会 (CSJ)
共催：中国化学会 (CCS)
日時：3月24日(日) 9時～17時10分
会場：S9会場 (コラーニングハウスII C601教室)

2009年3月に締結した『日中国際協力協定』に基づき、第1回は2010年アモイ(中国化学会年会)、2011年は震災の影響にてCSJ年会中の予定が中止となり、2012年中国化学会年会(四川大学)で開催された。2013年は“Effective Utilization of Elements and its Chemical Applications”(元素の有効活用と化学への応用)をテーマとして、日本6名、中国8名の若手化学者を選出してフォーラムを行う。将来の日中間ネットワークの基盤構築を目的として、若い世代が向き合い、サイエンスだけでなく、個人的な人間関係を構築しながら両国の理解を深める機会とする。

プログラム

- 9:00-9:10 Opening Remarks from CSJ (Prof. Kohei Tamao)
■ Chair: Shou-Fei Zhu (Nankai University)
- (I) Bio-related System and Asymmetric Synthesis
- 9:10-9:35 Sanzhong Luo (Institute of Chemistry, Chinese Academy of Sciences)
“Asymmetric Doubly Covalent Catalysis with Chiral In(III)-Phosphoric Acid Binary Catalyst”
 - 9:35-10:00 Lei Liu (Tsinghua University)
 - 10:00-10:25 橋本英樹 (岡山大学)
“Structural Analysis of Nanometric Amorphous Iron Oxide Produced by Iron-oxidizing Bacterium, *Leptothrix Ochracea*”
 - 10:25-10:50 Nanfeng Zheng (Xiamen University)
“Multilevel Structure Control of Metal Nanocrystals for Catalysis and Bioapplications”
(10:50-11:00 Coffee Break)
- Chair: Sanzhong Luo (Institute of Chemistry, Chinese Academy of Sciences)
- (II) Carbon material: Synthesis, Application, Simulation
- 11:00-11:25 辻 勇人 (東京大学)
“Novel Carbon Materials toward Efficient Photovoltaics-Carbon-bridged Phenylenevinylens and their Application to Dye-sensitized Solar Cells”
 - 11:25-11:50 Wen-Xiong Zhang (Peking University)
“Mechanism-directed Organic and Organometallic Chemistry of Carbodiimides”
 - 11:50-12:15 有田亮太郎 (東京大学)
“Magneto-orbital Effect without Spin-orbit Interactions in a Noncentrosymmetric Zeolite-templated Carbon Structure”
(12:15-13:55 Lunch break)
- Chair: 辻 勇人 (東京大学)
- (III) Homogeneous and Heterogeneous Catalysis
- 13:55-14:20 Shou-Fei Zhu (Nankai University)
“Iron-catalyzed Carbene Transfer Reactions”
 - 14:20-14:45 Aiwon Lei (Wuhan University)
“Oxidative Coupling: Chemistry between Two [Nucleophiles]”
 - 14:45-15:10 Qilong Shen (Shanghai Institute of Organic Chemistry)
“From Trifluoromethylation to Trifluoromethylthiolation: Development of New Trifluoromethylthiolated Hypervalent Iodine Reagent”
 - 15:10-15:35 藤田武志 (東北大学)
“Catalytic Origins of Nanoporous Metal”
(15:35-15:45 Coffee Break)
- Chair: 藤田武志 (東北大学)
- (IV) Coordination and Inorganic Chemistry
- 15:45-16:10 林 克郎 (東京工業大学)
“Refractory Oxides as Novel Electronics and Ionics Materials”
 - 16:10-16:35 Liang Zhao (Tsinghua University)
“Macrocyclic-directed Metal Cluster-centered Coordination Self-assembly”
 - 16:35-17:00 中村芳明 (大阪大学)
“Si-based Epitaxial Nanodots for Thermoelectric Material”
- 17:00-17:10 Closing Remarks From CCS

参加費：聴講可能。(年会参加登録者に限る。)
申込方法：当日受付。
問合せ先：日本化学会 企画部 稲田
電話(03)3292-6163
E-mail: inada@chemistry.or.jp

第20回化学教育フォーラム

主催：日本化学会 化学教育フォーラム企画小委員会
日時：3月24日(日) 13時30分～17時
会場：SA会場 (コラーニングハウスII C605教室)

内閣府は2012年6月4日、グローバル人材育成推進会議のまとめを公表した。これによると「高校卒業時に国際バカロレアを取得可能な、またはそれに準じた教育を行う学校を5年以内に200校程度へ増加させる」こととしており、国際バカロレア普及に本格的に取り組むことになった。現在、東京学芸大学附属国際中等教育学校がその前期中等教育課程 MYP の認定校、立命館宇治高等学校が中等教育課程 DP の認定校となっており、それぞれの教育課程が実施されている。化学教育フォーラムでは「国際バカロレア」をテーマに、この課程の考え方と我が国における今後の方向性について、担当課である文部科学省大臣官房国際課から説明をいただくとともに、IBを実施している学校からその教育実際の紹介、受け入れる大学の受け入れ体制について伺い、今後の対策などについて考えたい。

プログラム

- 全体司会：(化学教育フォーラム企画小委員会委員) 守橋健二
13:30-13:45
- 開会の挨拶 (教育・普及部門 部門長) 下井 守
 - 趣旨説明 (化学教育フォーラム企画小委員会・委員長) 松原静郎
- 13:45-14:30
- 文部科学省大臣官房国際課 永山賀久
- 14:35-15:35
- 東京学芸大学附属国際中等教育学校 鮫島朋美
 - 立命館宇治高等学校 Timothy Joseph O'Donnell
 - 大阪大学 山本ベバリー・アン
- 15:55-16:55
- パネルディスカッション 司会：(化学教育フォーラム企画小委員会 委員) 山崎友紀
 - 閉会の挨拶 (普及・交流委員会 委員長) 齊藤幸一
- 参加費：無料
申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先：日本化学会 企画部 瀬田
電話(03)3292-6163
E-mail: seta@chemistry.or.jp

日本化学会 男女共同参画推進委員会企画 第13回シンポジウム あなたがリーダーになるために ～第1回女性化学者奨励賞 受賞者紹介～

主催：男女共同参画推進委員会
協賛：男女共同参画学協会連絡会
日時：3月24日(日) 13時30分～17時
会場：SD会場 (フォレストハウス F103教室)

日本化学会では女性化学者奨励賞を新設しました。第1回受賞者をご紹介します。活力にあふれる社会を創っていくために、男女を問わず、個人の力を存分に発揮できる環境とともに、社会を牽引していくリーダーを育てることが求められています。この機会に、あなたがリーダーになるために何が必要か、皆さんと一緒に考えましょう。

プログラム

- 13:30- 開会挨拶 (日本化学会会長) 玉尾皓平
13:35- 趣旨説明 (男女共同参画推進委員会委員長) 佐々木政子

13:40- 女性化学者奨励賞受賞者紹介
リーダーに必要なもの！

13:50- 基調講演1 もっと意思決定に参画を（東京理科大学）黒田玲子

14:15- 基調講演2 2つの視点（帝人株式会社）神山三枝

14:40- 基調講演3 女性博士リーダーの育成：グリーン自然科学国際研究教育プログラムの取組（名古屋大学物質科学国際研究センター）阿波賀邦夫

15:10- パネルディスカッション：若手研究者 vs リーダー

■若手研究者
大阪府立大学 児島千恵
名古屋大学院生 松岡亜季
産業技術総合研究所 藤原直子

17:00- 閉会挨拶（日本化学会理事）栗原和枝

17:30- 懇親会 無料（学生歓迎）（司会 相馬芳枝）

参加費：無料
申込方法：E-mail 事前受付及び当日会場にて受付。
問合せ先：日本化学会 総務部 百武
電話(03)3292-6162
E-mail: danjo@chemistry.or.jp

JACI化学技術戦略セッション —持続可能な社会に貢献する 新化学技術—

主催：(公社)新化学技術推進協会
共催：日本化学会
日時：3月24日(日) 9時30分～12時30分
会場：SK 会場（ラルカディア R202 教室）

JACI（新化学技術推進協会）は、新しい化学技術を発展させるために、産学官の関係者が連携して活動する場を構築することを目指して2011年4月に発足した公益社団法人です。本セッションでは、JACIが進めている活動について化学技術戦略提言を中心に具体例を交えて紹介するとともに、化学が持続可能な社会の実現のために世界をリードしていることを、産業の視点で発信したいと考えています。企業関係者やアカデミアの先生方のみならず、化学産業に興味をお持ちの学生の皆様の参加をお待ちします。

プログラム

9:30- 開会挨拶（JACI）井田 敏
9:35- JACIの化学産業における活動と役割（JACI）五十嵐 明
10:00- 化学産業が目指すべき化学技術戦略—JACIからの提言—（JACI戦略委員会・委員長/東レ）出口雄吉
10:30- ナショプロとJACI（経済産業省）山崎知巳
11:00- エネルギーキャリア、バイオマス関連施策（仮題）（文部科学省）清浦 隆

11:30- 化学産業の貢献（成城大経済）平野 創
参加費：無料
申込方法：事前登録不要。
問合せ先：新化学技術推進協会 事業部 大竹
電話(03)3272-6880
E-mail: ohtake@jaci.or.jp

企業で活躍する博士たち —博士課程で何を学ぶか—

主催：日本化学会産学交流委員会人材交流小委員会
日時：3月24日(日) 13時30分～17時30分
会場：SK 会場（ラルカディア R202 教室）

科学技術で生き残りを図る日本において、科学技術を推進する原動力、イノベーションの担い手として、学においても産においても高度な知識と研究開発力を持った博士人材が非常に期待されています。一方で、博士課程在学生在に企業・社会を実際に学ぶ機会が少なく、産に目を向ける場が少ないのが実情です。また、産においても博士の活用に敷居が高い企業はまだあります。日本化学会では、平成19年度より、化学系学生を対象に「博士セミナー」を開催し、産業界をもっと知ってもらおう試みを行ってきました。今回は、企業の中で活躍する博士たちを紹介することで、より一層産業界での博士の活躍の場を増やしたいと考えております。また、企業で活躍する先輩から博士課程で何を学ぶかについてアドバイスを貰いたいと考えています。なお、セミナーの対象者は、博士課程在籍者、博士課程進学希望の修士課程在籍者、ポスドク研究者及び博士セミナーに関心をお持ちの産学官の皆様とともに、博士の採用を検討している企業関係の方を考えています。

プログラム

13:30- 博士研究者に対する期待（人材交流小委員会・委員長/東レ）長瀬公一
14:00- 化学産業界から博士人材への期待～産の熱いメッセージで進路の迷いを断つ～（JACI人材育成部会長/日東電工）中島登志雄
15:10- 企業の若手博士研究者による研究開発事例紹介とパネル討論。
パネリスト：福田行正（宇部興産）、山戸 斉（BASF ジャパン）、●●（東芝）、古宮哲夫（島津製作所）、谷野貴弘（東レ）、谷 洋介（京大）、田口怜美（農工大）
司会：長瀬公一（東レ）

17:20- 総括（人材交流小委員会・副委員長/農工大）中村暢文
参加費 無料
申込方法 事前登録不要。
問合せ先 日本化学会 企画部 河瀬
電話(03)3292-6163
E-mail: sangaku@chemistry.or.jp